

# ばらんす

第60号

## 編集発行

大田原市総合政策部  
政策推進課 市民協働係  
〒324-8641大田原市本町1丁目4番1号  
☎ 0287-23-8715  
FAX 0287-23-8748  
mail seisakusuishin@city.ohatawara.tochigi.jp

### 輝

シリーズ

## 第50回フローレンス・ナイチンゲール記章受章

このじゆんこ

一般社団法人 栃木県訪問看護ステーション協議会 相談役 **河野 順子さん**



▲「第50回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式」で河野順子さん(左)に記章を授与される皇后さま＝東京都港区で2025年7月31日午後2時23分、西夏生撮影

1月6日、「ばらんす」編集委員3名で第50回フローレンス・ナイチンゲール記章を受章された河野順子さんにインタビューさせていただきました。笑顔が魅力的な河野さん。そのお姿から、日々の業務で患者さんに気遣い、接する様子が伝わってきました。河野さんのインタビューを通して、「自分らしく輝く」ヒントをたくさんいただきました。(記 相馬)

### 「第50回フローレンス・ナイチンゲール記章」受章

赤十字国際委員会(スイス・ジュネーブ)が2年ごとに、世界各国で顕著な功績を残した看護師に贈る「フローレンス・ナイチンゲール記章」。昨年7月31日に開催された第50回の記章授与式では、皇后陛下から直接記章を賜りました。日本からは河野さんのほかに2名が選ばれました。

2020年3月1日発行「ばらんす」第48号においても、河野順子様を特集させていただきました。市HPよりご覧ください。



## こどもたち・若い世代へのメッセージ

人生の選択肢はたくさんあります。選択に迷ったら、自分の気持ちを大切に、自分で選んでください。自分の人生です。やりたいことは誰に何を言われても挑戦してください。相手を知る努力も大切です。自分に負けないで頑張ってください。

また、小さな成功を積み重ねて、自信をつけていってください。

## 河野順子さんへのインタビュー

### 一途に歩んだ看護の道

高校卒業後、学びを続けたいという思いで前橋日赤の看護学生となり、その後、旧大田原日赤に赴任。「学生時代は知識を得る楽しさがあったが、看護師として患者さんと接し多くのことを学び、看護の喜びや楽しさを知った」。そして、「これからも看護師としてまだまだやっていきたい」と語る。

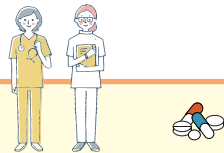
### 家庭とのバランス

ご主人は、転勤のタイミングで会社を退職し、家事や子育てを全面的に担いながら、「あなたは仕事に専念しなさい」と、妻を支えてこられた。お互いを支え合うパートナーシップで、バランスの取れた素敵なお夫妻。妻への深い理解と思いやりを感じた。

### 主な功績

#### ◆退院計画の制度化

介護保険制度がスタートする以前、長期入院患者の行き先が課題でした。「主役は患者さん」との信念のもと、患者・家族と話し合い、患者にとって最善の退院支援制度の構築に向けて、国際医療福祉大学と共同研究に取り組みました。その頃を振り返り、「自分一人ではできなかったこと。地域の方々や患者の家族など多くの方の支えがあったからできた」と話していました。退院計画は、まず院内で導入、その後、先進的取組を広めるために全国で講演を重ね、制度化されることとなりました。



### 現在の取り組み:「人生会議(ACP)(アドバンス・ケア・プランニング)」

「人生会議」をサロン形式で開催している。誰しも訪れる「死」について、避けることなく、どんな最期を迎えたいかを、何度も話し合いを重ねることで、少しずつ明確にしていく。

救急搬送時に希望する延命治療などを伝えられるよう、エンディングノートの作成をすすめており、一人ひとりが最期まで自分らしく生きることができるよう、取り組んでいる。

そんな「人生会議」を開催してみませんか。



▲ばらんす編集委員と河野順子さん(前方左)

#### ◆働きやすい職場環境の整備(ワークライフバランス推進)

家庭を持つ看護師がどのような勤務形態にすれば働きやすいかを考え、3交代制から2交代制への制度の見直しを提案しました。同時に、病院に設置されていた託児所に働きかけ、スタッフの利用しやすい体制を整えました。

## 日本女性会議2025橿原開催レポート

日程：令和7年10月3日(金)～5日(日)  
場所：奈良県橿原市

ばらんす編集委員2名が  
参加しました!

日本女性会議2025橿原が奈良県橿原市で開催され、全国から約2,000人が参加した。

大会では、「日本国の始まりその時代を生きた女性たち」をテーマに、奈良大学文学部の渡辺晃宏教授と鈴木喬准教授による講演が行われた。飛鳥時代から奈良時代にかけて6人の女性天皇が即位していたことや、日本初の女性天皇である推古天皇が聖徳太子とともに十七条憲法を制定したことが紹介され、「古代の女性は、実力があれば活躍できる社会に生きていた」と語られた。

また、「女性就業率最下位の奈良から考える」をテーマとしたトークセッションでは、働きやすい職場づくりについて活発な意見交換が行われた。女性の就業率は年々上昇しているものの、年齢とともに広がる賃金格差や、女性管理職の少なさといった課題も改めて浮き彫りとなった。

大会開催中、奈良県出身の高市早苗氏が政党の新総裁に決定し、その後、日本初の女性首相に就任されたことは、日本政治の大きな転換点となった。女性が活躍する未来に、期待と希望を寄せたい。  
(記 藤沼)





## “明治のナイチンゲール”

おお ぜき ちか  
大関 和



大関和は、日本で最も早い時期に正規の訓練を受けた看護師「トレインドナース」の1人として、活躍しました。今回は、日本近代看護の先駆者ともいえる和について紹介します。

和は、安政5年（1858）、黒羽藩家老であった父・大関弾右衛門増虎の次女として、黒羽田町に生まれました。明治になり、上京した和は桜井女学校附属看護婦養成所の1期生として看護についての知識と技術を学びました。卒業後は帝国大学医科大学附属第一医院（現在の東京大学病院）初代外科看護婦取締（外科の看護婦長）、新潟県高田（現、新潟県上越市）の知命堂病院初代看護婦長を歴任。明治42年（1909）には大関看護婦会を設立し、看護師を派遣する業務を行います。また、講師として後進の育成にもあたりました。



桜井女学校時代の和 前列右から2番目  
(知命堂病院提供)

さらに感染症対策と公衆衛生の普及に尽力し、『派出看護婦心得』（明治32年）や『実地看護法』（同41年）等の執筆を通して、看護の重要性や意義、実践方法、看護師としての心得について普及啓発を図りました。

さらに感染症対策と公衆衛生の普及に尽力し、『派出看護婦心得』（明治32年）や『実地看護法』（同41年）等の執筆を通して、看護の重要性や意義、実践方法、看護師としての心得について普及啓発を図りました。

## 一人ひとりが輝く大田原のつどい 田中ひかるさん講演会

テーマ：「大田原が生んだ”明治のナイチンゲール”大関和の物語」

日程：令和8年1月31日（土）

会場：那須野が原ハーモニーホール 大ホール

講師：『明治のナイチンゲール 大関和物語』著者 田中ひかるさん

主催：大田原市、大田原市女性団体連絡協議会



2026年度前期のNHK連続テレビ小説「風、薫る」の原案『明治のナイチンゲール 大関和物語』著者、田中ひかるさんの講演会とあって、県内外から約1,300人が参加し、ホール満員の大盛況となりました。

講師の田中ひかるさんは、執筆の動機や大田原の印象などについて語られました。その後、栃木市出身のタレント義達祐未さんの司会で、旧黒羽町出身の栃木県看護協会会長である朝野春美さんを交えたパネルディスカッションが行われました。

ディスカッションでは、大関和について、田中さんが「選択肢のない時代に、選択肢をつくった人」と述べ、朝野さんは「今あることに満足せず、新しいものを創りあげた人」と評し、近代看護の先駆者としての功績について語られました。

この春から始まる、看護職の幕を開いた人々のドラマに期待したいと思います。（記 岩元）



# 令和7年度 男女共同参画推進事業者表彰



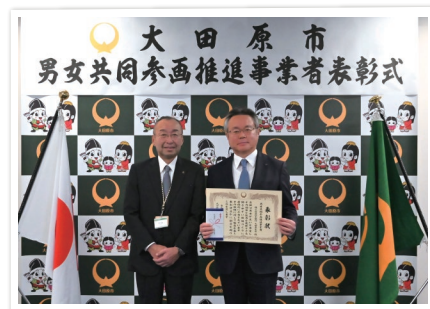
市HPに詳しく紹介しています

市では、男女が互いを尊重し、責任を分かち合い、その個性と能力を発揮できる働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる事業者を表彰しています。今年度は次の事業者の受賞が決定しました。

## 受賞事業者

### 株式会社 栃木銀行 大田原支店 様

所在地:山の手 / 業種:金融業(銀行)



#### ◆主な取り組み

性別にとらわれないジョブローテーションや管理職向けアンコンシャスバイアス研修を通じて、多様な人材育成と業務領域拡大を推進しています。また、産前産後休暇や育児休業、短時間勤務、フレックスタイム制度などの仕事と子育て・介護の両立支援や、公募制の「ダイバーシティ&インクルージョンプロジェクトチーム」による課題やアイデア出しなどにより、誰もが活躍でき、多様性を尊重する職場づくりを進めています。

## 大田原市男女共同参画推進事業

### 備えて安心!備蓄と収納でつくる「とも家事防災」講座

12月24日  
開催

講師：防災備蓄収納1級プランナー講師 櫻井澄子氏

会場：大田原市役所 101 市民協働ホール

参加者：市内在住・在勤者 29名

家族で協力し、安心・安全な暮らしを目指す「とも家事防災」講座を開催。防災備蓄収納のプロ櫻井澄子氏が、3つのポイントで実践的に解説しました。



#### 1 災害時の行動シュミレーション

災害発生から1分、3分…翌日、7日後までの行動をチェックシートに記入。そこから家族の役割や必要なモノ・コトを整理します。

#### 2 備蓄リストの作成

第1に生命の確保、第2は状況が落ち着くまで、第3はライフライン修復まで。それぞれの段階で、家族に必要な備蓄リストを作成します。

#### 3 どこに何を収納するか

シニアや子どもたちにもわかりやすく、取り出しやすい動線や避難経路を考えます。また、自分や家族の状況に合わせた家庭内備蓄の必要性、普段の生活で使う食品を少し多めに買い置きするローリングストックの大切さについても説明がありました。

押し入れには不要なものが入っていませんか。不要なものは捨てて、押し入れの下段を防災用品入れのスペースとして確保しましょう。

#### 参加者の感想

(記 江馬)



- ・防災備蓄はしているが、防災バッグがなく、一時避難のものを用意したい。
- ・事例の写真をたくさん見ることができ、備蓄のイメージが具体的にできた。ローリングストックを意識して準備したい。

## 編集後記

春から始まるNHK連続テレビ小説「風、薫る」は“明治のナイチンゲール”と称された本市出身の大関和さんをモチーフにしている。そして昨年、第50回フローレンス・ナイチンゲール記章を受章された河野順子さん。改めて、看護師という職業の尊さと、その歩みに敬意を表しつつ、春からの朝ドラに注目したい。(記 天沼)

## 編集委員

(五十音順)

天沼明美 岩元利孝 江馬久美 相馬和恵 藤沼久子  
国際医療福祉大学 伊藤美由紀 森越美香

## ばらんす編集委員募集

「ばらんす」(年2回発行)の編集ボランティアを募集しています。

○年齢、性別は問いません。○編集会議年8回(予定)  
お問い合わせ：政策推進課市民協働係 ☎23-8715